

北海道大型短波レーダーの進捗状況報告

Status report on Hokkaido HF radar

西谷 望[1]; 小川 忠彦[2]; 大塚 雄一[3]; 塩川 和夫[3]; 菊池 崇[4]; 齊藤 昭則[5]; 佐藤 夏雄[6]; 行松 彰[7]; 細川 敬祐[8]

Nozomu Nishitani[1]; Tadahiko Ogawa[2]; Yuichi Otsuka[3]; Kazuo Shiokawa[3]; Takashi Kikuchi[4]; Akinori Saito[5]; Natsuo Sato[6]; Akira Sessai Yukimatu[7]; Keisuke Hosokawa[8]

[1] 名大 STE 研; [2] 名大・STE 研; [3] 名大・STE 研; [4] 情通機構; [5] 京都大・理・地球物理; [6] 極地研; [7] 極地研超高層 (併 総研大極域科学); [8] 電通大・情報通信

[1] STELAB, Nagoya Univ.; [2] STE Lab., Nagoya Univ; [3] STE Lab., Nagoya Univ.; [4] NICT; [5] Dept. of Geophysics, Kyoto Univ.; [6] NIPR; [7] UAP, NIPR (SOKENDAI, Polar Science); [8] Univ. of Electro-Communications

北海道短波レーダーは平成 17 年度特別教育研究経費における計画として認められ、現在建設に向けて準備を進めている。このレーダー装置を活用すれば、電離圏・熱圏・上部中間圏における、サブオーロラ帯から中緯度にわたる広域の電場分布やプラズマ密度変動、不規則構造分布等の二次元観測が可能となり、様々な新しい研究成果が得られると期待されている。また、CAWSES プログラムの一環として非常に重要な役割を果たすことも期待されている。本講演では、レーダー計画の進行状況、レーダー以外の観測手段との連携の可能性、等に関する報告を行う。